

こくど通信

正食・自然食から発酵食へ

2018年2月15日発行

3月号

株式会社 黒怒

〒488-0823 愛知県尾張旭市庄南町二丁目5番地10
TEL.052-776-1251 FAX.052-776-1241
http://www.kokudo.ne.jp/



志ある農家がつくった会社

あいのう流通センター特集

生産と消費を結びつけるハブ組織が使命。
あいのう流通センターは、愛農生産組合に参加する生産者が、丹精込めて栽培した農産物を消費者へ届けるという、生産と消費を結びつけるハブ組織といっている会社で、生産者と消費者との「顔と心がみえる関係づくり」を志向し続けて、今年で36年目(創業1982年)を迎えます。その主な事業内容は、有機農産物や無添加加工品の卸と小売販売(共同購入や宅配、直売店運営)で、扱い品目は、野菜や卵などの農産品だけでなく、調味料や農産加工品など食材全般。多くのオリジナル商品も開発・販売されています。

生産者の有機農業が持続できるような応援。
はじめに、生産と消費を結びつけるハブ組織と書きましたが「志ある農家がつくった会社」という成り立ちもあり、事業運営で常に意識されるのが、志ある国内生産者の持続可能な環境づくりです。チラシ(今回の折込み)でも紹介しているマヨネーズの開発理由も、愛農ネットワークの生産者がつくる鶏卵の余剰分を、無駄なく利用するための工夫でした。



*裏面に続く

▲豊橋市の神藤農園さん。



▲あいのう江端貴社長(右)と弊社眞田。

互いの専門性や個性で、品揃えを補い合うパートナー。

陽光が、日々やわらかとなる候、公私ともに暮らしに動きのある季節ですね。
さて、今回のこくど通信は、私たち黒怒の永年のパートナーである、愛農さん(あいのう流通センターさん)を特集しました。ご存じの方も多いかと思いますが、愛農さんは、志を持つ農産物の生産者集団、愛農生産組合の販売部門の位置づけにある流通団体です。
当社のご縁は、野菜や農産加工品の販売が生業の愛農さんに、調味料や加工品など私たちの得意とするこだわり食材を提供することからはじまりました。自然食問屋として、愛農さんの品揃えの充実を支えながら、互いの信頼関係を育み、現在においては、相互に仕入れと小売りの関係というパートナーです。互いに切磋琢磨した歴史、協同の足跡を振り返りながら、愛農さんの商品紹介を試みた特集。ぜひ、お読みください。

黒怒 代表取締役 眞田 也守志

第一酵母

11+1 添付セール!

※添付期間中は発注の際に、“添付分”をご記入ください。

3月2日(金)納品分~3月31日(土)納品分



製品名	容量	ケース入数	定価(税抜)
コーボンマーベル	525ml	12	4,800円
コーボン(うめ)	525ml	12	3,600円
	1800ml	4	10,800円
コーボン(みかん)	525ml	12	3,600円
	1800ml	4	10,800円

製品名	容量	ケース入数	定価(税抜)
コーボン(ぶどう)	525ml	12	3,600円
	1800ml	4	10,800円
梅肉酵母エキス	115g	12	3,700円
コーボンローヤル	115g	12	6,800円
コーボン発酵料理用	550g	6	2,300円

※コーボン徳用サイズ(1800ml)は、3ケース混載(ケース単位)可。添付商品は、ご希望の味をご指定下さい。
※それぞれ、ケース単位でのご注文をお願いします。
※料理用は、1ケース6個入のため、3ケース単位で「17+1添付」となります。

カルゲン

日頃の感謝キャンペーン

3月21日(水・祝)納品分~4月30日(月)納品分



日頃の感謝の気持ちを込めてキャンペーンを実施します!!

添付条件 20C/S + 2C/S添付(2種類混載可)
添付2C/Sは、ご希望の商品をご指定下さい。

吸収率100%のイオン化カルシウムなので、発育盛りのお子さんやお年寄りの方にも。
天然水にカルシウムイオン水・食物繊維・オリゴ糖・ビタミンCを加え、カロリー大幅カットしました。

305701 ケース単位出荷
カルゲンエース
容量 ケース入数 定価(税抜)
200ml 24 100円

305703 ケース単位出荷
ダイエットカルゲン
容量 ケース入数 定価(税抜)
200ml 24 120円

※当社定番在庫品です。1ケース単位より納品可能。 ※ケース単位取寄せです。



浜名農園

伝統野菜を育てよう

2018年2月中旬~5月末

浜名農園の想いの丈が込められた
国産在来種・固定種、
種子消毒無しの
春まき種。

○リードタイム:1週間
(土日祝祭日除く)
○発送ロット:100ケ以上送料無し。
(100ケ未満の場合は送料¥750)

くわしくは、別紙チラシをご覧ください。

おしらせ

1 休止商品(冬季限定)

- 実施時期...在庫なくなり次第、終了
- 〈日東醸造〉チゲ鍋つゆ/寄せ鍋つゆ/旨塩麹鍋つゆ
酒粕入 旨塩麹鍋つゆの素/ベジブロス麹鍋つゆの素 各600g
- 〈マルサンアイ〉キムチ鍋スープ/みそちゃんご鍋スープ
寄せ鍋スープ/豆乳鍋スープ/とり塩鍋スープ 各600g
- 〈井筒屋〉さぬき手延べうどん(半生)190g
- 〈桜井食品〉即席味噌煮込みうどん105g
- 〈創健社〉ビッグアーモンドチョコ400g/ミルクチョコチョコレート70g

2 再開商品(夏季限定)

- 実施時期...3月上旬より
- 〈アルプス〉信州フルーツゼリー 80g×5
- 〈花田〉りんごちゃん&ぐれーぶる 90ml×5
- 〈オカウエ〉手延べそうめん 50g×6 / 手延べ冷麦 250g
- 〈東海麵〉奥長良はまだそうめん/ひやむぎ 各260g
- 〈りんねしゃ〉菊花せんこう10巻×3
- 〈太田油脂〉ぷるっとゼリー(ぶどう/みかん/もも)各16g×10
- 〈東和〉フルーツみつ豆/杏仁豆腐 各500g

3 価格改定商品

- 実施時期...2018年今夏分~
- 〈オカウエ食品〉手延べ素麺 50g×6 **381円** → **400円**
手延べひやむぎ 250g **363円** → **381円**
- 〈オキノ〉有機キッドコーヒー(無糖/有糖)各1L **570円** → **580円**
- 実施時期...2018年3月2日(金)納品分より
- 〈加持養鰻場〉うなぎ蒲焼【たれ付】約130g **2,070円** → **2,333円**
うなぎ白焼【たれ付】約130g **1,894円** → **2,157円**
- 実施時期...2018年4月2日(月)納品分より
- 〈創健社〉メイシーちゃんいちごとぶどうのラムネ 80g **215円** → **230円**

4 取扱い変更商品

- 実施時期...在庫なくなり次第、定番在庫→単品取寄せ ※納入価が変更になります。
- 〈ひしわ〉農業を使わずに育てた紅茶T.B. 44g
(キング製菓)ブランクッキー 20枚
- 〈飯尾醸造〉富士玄米黒酢900ml
- 実施時期...在庫なくなり次第、定番在庫→ケース単位取寄せ ()内はケース入数
- 〈ガルバニーナ〉センチュリーピオコーラ 355ml(12)
- 実施時期...在庫なくなり次第、定番在庫→ケース単位直送 ()内はケース入数
- 〈ハヤシ食品〉根昆布入りとろろ 35g(20)
- 〈林商店〉おさしみわかめ(天草産) 200g(30袋)

5 容量変更商品

- 実施時期...3月頃より順次切り替え
- 〈スカイフード〉手ほぐし紅鮭 **75g** → **50g**
※原材料高騰により、価格据え置きで内容量が減量になります。※瓶サイズも小さくなります。

6 休止商品

- 実施時期...在庫なくなり次第(再開時期未定) ※メーカー都合により。
- 〈海の精〉天日干したくあん(有機大根)1本
- 〈太田油脂〉大袋おむすびポンツ! 20袋

7 取扱い終了商品

- 実施時期...在庫なくなり次第
- 〈馬場水車場〉奥八女 杉の葉線香 1束(60本)/3束(180本)

8 ラベル・パッケージ変更商品

- 実施時期...順次切り替え
- 〈かめびし〉にがり入り醤油 1.8L(濃口/淡口)
※①表に2枚貼り付けていたラベルを1枚に統合。②ラベルのサイズ縮小。
- 実施時期...3月頃より順次切り替え
- 〈太田油脂〉MSこめ粉ロールクッキー 10個
※パッケージ表示変更。(仕様・価格の変更はございません)

9 賞味期間変更商品

- 実施時期...今季分より
- 〈東海麵〉奥長良はまだそうめん **2年** → **1年**
奥長良はまだひやむぎ **1年半** → **1年**

※表示価格はすべて「税抜価格」です。

聞き手 あいのうさんと黒怒は、いま、強力な信頼関係にあるビジネスパートナーですが、そもそも、どんな経緯からそうなったんでしょう？

江端 質問にお答えする前に、私どもの歴史に少し触れさせていたいただきたい。まず、私たち、あいのう流通センターのルーツは「愛農会」という組織にあります。この会は、70年ほど前、つまり終戦直後です。国士が荒れ果て、日本国民が食糧不足の只中にあるとき、この国の再建のために、いかに食糧を生産・供給していくかという目的で結びついた全国生産者の組織です。設立当初は、安全・安心・しんというよりも、命を繋ぐための食糧をとにかく効率的に生産・供給しなければならぬ、農家の豊かな暮らしを実現させるまでにはならないという使命を担った組織でした。たとえば、いまでは考えられない話ですが、当初は、農家の労働負担軽減や、効率のいい生産方法を追求するという視点から、農業使用を推奨していたこともありました。

聞き手 ゼロから日本の農業を再生させる試みのなか、まずは農家の暮らしの安定を最優先し、試行錯誤されていたのですね。その「愛農会」と、あいのうさん設立との関係をもっと詳しく教えてくださいいただけますか？

江端 愛農会が正しくは全国愛農会といいますが、この会は、戦後の荒れ果てた農村をまのあたりにした小谷純一氏が、愛と協同に満ち輝く村に！世界に恒久の平和実現を！の理想を掲げ、終戦の年、1945年に設立されました。現在は、社団法人として専業兼業農家、この運動を理解してくださる方々を会員とし、たゆまぬ活動を続けています。

愛農会はその理想を追い求める中で、いくつかの課題にぶつかります。その一つは、日本経済が高度成長を遂げる途上で、働き手である農村の若者が農業を嫌い都市へ流出して行くことでした。これではいかん！農業人の育成が緊急課題だ！となり、その養成機関としての学校を設立します。これが、三重の愛農会本部に隣接する日本

聞き手 ありがとうございます。では最後に、いま、ネット通販がそのシェアを高め、流通チャンネルも多様化、大手流通が自然食ジャンルにも食い込む中で、あいのうさんの今後の展望をお聞かせください。

江端 いま、世の中にオーガニックという言葉が氾濫しています。これは認証としての有機です。一定の基準をパスすればオーガニックというお墨付きブランドでモノが売れるという世界です。

皆さんや宅配会員さんのニーズは、野菜に限らず、安全で安心な食料品や生活用品全般でしたので、店舗や宅配カタログで、黒怒さんより仕入れた商品を扱うことは、会員さんニーズに応えるアクションでした。

その他、協同によるスケールメリットで、いままで扱えなかった良質の商品を扱うことができたり、商品の開発、情報やネットワークの共有なく、様々なメリットをつくりながら現在に至っています。

私たちが、志向する有機は、すこしニュアンスが異なります。環境への配慮や生産者の暮らし向き、季節感を楽しむ食卓等も含めた、循環持続できる仕組みから生まれる農産物の流通です。これはスペックというよりは、スタンスの問題です。良質の食材を扱っていた食流通団体も、大手資本と手を組むなどの流れもあり、難しい時代になっていくんだなというのが正直な想いです。

私たちは、地道な営みではありませんが、よい生産者の育成と、よい地域社会の復権が大事かと考えています。農業は個人でできません。地域の山里や地域を流れる川、人びとの暮らしなど、コミュニティ全体で営むものです。けっして簡単ではなく、時間も掛かるかと思いますが、ふれることなくよいコミュニティ作りを支えながら前進していくつもりでおります。

聞き手 本日は、お忙しいなか、ありがとうございました。

江端社長に聞きました 黒怒&あいのう 交流史 【ダイジェスト版】



唯一の私立農業高校「愛農学園農業高等学校」です。

次に課題となったのが、安全で安心な食の流通の問題でした。

1975年に出版、当時ベストセラーとなった小説「複合汚染」の影響もあり、食の安全や安心の問題は、世間的にも大きな関心事となっていたこともあって、都市生活者のなかにも、安全な食材を求めるニーズは非常に高まっていました。

その時代に、熱心に愛農運動をやっていたのが私たち愛農流通センターを設立した、現会長の池野（前社長で創業者）です。池野は、現在でもそうですが、小原村（現豊田市）の農家（生産者）です。池野は、愛農会に参加、活動（運動）を続ける中で、いくつかの矛盾を感じていきます。それは、自分たちが、丹精込めて作る農産物に対する思いが、食べてくれる方に伝わらないこと、安全な野菜や卵が、他の生産者の農産物と一っしょに農協経由で安く出荷されることなどでした。しかし「私たちの作る農産物の価値を理解し

唯一の私立農業高校「愛農学園農業高等学校」です。

次に課題となったのが、安全で安心な食の流通の問題でした。

1975年に出版、当時ベストセラーとなった小説「複合汚染」の影響もあり、食の安全や安心の問題は、世間的にも大きな関心事となっていたこともあって、都市生活者のなかにも、安全な食材を求めるニーズは非常に高まっていました。

その時代に、熱心に愛農運動をやっていたのが私たち愛農流通センターを設立した、現会長の池野（前社長で創業者）です。池野は、現在でもそうですが、小原村（現豊田市）の農家（生産者）です。池野は、愛農会に参加、活動（運動）を続ける中で、いくつかの矛盾を感じていきます。それは、自分たちが、丹精込めて作る農産物に対する思いが、食べてくれる方に伝わらないこと、安全な野菜や卵が、他の生産者の農産物と一っしょに農協経由で安く出荷されることなどでした。しかし「私たちの作る農産物の価値を理解し

唯一の私立農業高校「愛農学園農業高等学校」です。

次に課題となったのが、安全で安心な食の流通の問題でした。

1975年に出版、当時ベストセラーとなった小説「複合汚染」の影響もあり、食の安全や安心の問題は、世間的にも大きな関心事となっていたこともあって、都市生活者のなかにも、安全な食材を求めるニーズは非常に高まっていました。

その時代に、熱心に愛農運動をやっていたのが私たち愛農流通センターを設立した、現会長の池野（前社長で創業者）です。池野は、現在でもそうですが、小原村（現豊田市）の農家（生産者）です。池野は、愛農会に参加、活動（運動）を続ける中で、いくつかの矛盾を感じていきます。それは、自分たちが、丹精込めて作る農産物に対する思いが、食べてくれる方に伝わらないこと、安全な野菜や卵が、他の生産者の農産物と一っしょに農協経由で安く出荷されることなどでした。しかし「私たちの作る農産物の価値を理解し



詳しくは、折込みチラシをご覧ください。

黒怒が扱う、あいのう流通センターさんの商品



***1 愛農会**
 本部は三重県。全国に会員を擁し、近年は韓国、インドなど海外での提携団体や会員も増え、国際社会を視野に入れた活動を行う運動団体。国民の生命と健康を守ることを使命とし、農業技術や農業経営の研究はもちろんのこと、人づくり、つまり人間形成教育にも力を入れている。

***2 複合汚染**
 1974年10月から1975年6月まで朝日新聞に連載され、連載中から大きな反響を呼んだ。作家、有吉佐和子の長編小説。現在も環境問題を考える上でのバイブルとしてロングセラーとなっている。

■会社概要

称 号：愛農流通センター
 本 社：愛知県豊田市平畑町東田731番地
 創立（設立）：昭和57年4月1日（1982年）
 資 本 金：7,320万円 / 株主152名
 代表取締役：江端 貴（役員6名/監査委員2名）
 営 業 種 目：有機農産物及び無添加加工品の販売と卸及び食品製造・企画、直営農場経営



※表示価格はすべて「税抜価格」です。